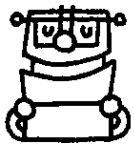




小 / 理科 / 6年 / 生物と環境 /
植物の体とはたらき / 理解シート

日が当たらない場所の植物は、なぜ生長が悪いの



日光が少ないと、葉でデンプンをたくさんつくれる
から、栄養不足で生長が悪くなるのさ。

動物は、食べ物がないと、栄養がとれず死んでしまいます。ところが植物は、根から吸い上げた水とわずかな養分、日光があれば、生きています。植物は、日光があれば、葉の中で自分で栄養（デンプン）をつることができるからです。

葉の中では、根から吸い上げた水と、空気中の二酸化炭素を材料にして、日光の助け（エネルギー）をかりて、デンプンと酸素がつくり出されています（このはたらきを、こうごうせい光合成という）。このとき、日光のエネルギーがないと、デンプンできません。

日が当たらない場所でも、明るければ光があるため、わずかですが、デンプンがつくられます。けれども、その量が少ないため、植物が生長していくのに十分な栄養がつくり出せず、生長が悪くなります。

種類によっては、日かげのほうがよく育つ植物もある

葉でつくられたデンプンは、水にとけるものになり、植物の体の中で、芽や花や根ができる部分や、種、実、いもなどに運ばれ、栄養として使われたり、もとのデンプンに変えられて、たくわえられたりします。

植物の種類によっては、日なたは苦手な、少し日かげの、少ない日光で光合成ができる植物もいます。けれども、ふつうは、日のよく当たる場所のほうが、デンプンをたっぷりつくり出すことができ、大きく、たくましく生長します。

日かげになる、生けがきや庭の木は、
日かげにあった種類の植物が
植えられているのね。

